

居酒屋談義

第1回

正副会頭×若手経営者25人

正副会頭からのメッセージ



会頭
高木 繁雄
(株)北陸銀行 特別顧問

会場
そば割烹「風庵」
荒町5-1 寺島第二ビル

「高い志をもって挑戦してほしい」

初めのうちやや緊張気味だった参加者も、高木会頭の明るい人柄に接して次第に打ち解け、居酒屋談義は仕事観から人生観など幅広い話題に広がっていった。

乾杯の後、会頭から参加者に対し、商工会議所に加わって思ったことや要望、聞いてみたいことは何かとの質問を投げかけた。

参加者からは、「中小企業は国の補助金などの情報に乏しく活用できていない。事業者にとって役立つ助成金や、融資制度の情報など、中小企業をサポートする情報を発信してほしい」「ベンチャー企業向けのセミナー等を積極的に行ってほしい」「会議所は少し敷居が高い感じ

がある。例えば図書館のような気楽に入れるような場にしてほしい」などの意見があった。

これに対し、会頭は、商工会議所の誕生の経緯や歴史、その使命を語り、地元企業の発展こそが商工会議所の使命であり、中小企業のメリットとなる事業や、起業を支援する事業を積極的に行っていきたくて語った。

参加者から、経営者に求められる資質は何かとの質問があり、会頭は「人に相談する時は、必ず自分の考えを持つこと。そうでないと絶対に社長は務まらない」「自分自身も若い時からいつも、『自分はこうしたい』と思いますが、いかがでしょ

第1回居酒屋談義を6月17日(火)、富山市総曲輪周辺の5軒の飲食店で開催した。若手経営者25人(当所青年部員)が5人ずつ各お店に分かれ、各会場に1人ずつ陣取った正副会頭と約90分にわたって歓談した。その夜、肩を寄せ合い、酒を酌み交わし、経営経験・人生経験豊かな社会の前線に立つ先輩たちの言葉は若手経営者にどのような刺激を与えたのだろうか。



うか」と人に相談してきた」また、「絶えず最悪のケース、リスクシナリオを考えること。例えば、飲食店なら1週間や2週間お客さんが来なくても営業が続けられる経営をしないとイケない」と答えた。

また、若い時の失敗談はありますかとの質問に、「失敗には『良い失敗』と、『悪い失敗』がある。悪い失敗とは逃げて失敗すること。絶対に嫌なことから目を背けてはいけない。たとえ失敗したとしても、なぜ失敗したかを考えれば、次につ

ながる」また、「若いうちはやり直しがきく、人間はこうなりたいという志以上のレベルにはいかない。だから、人生や仕事の目標と志は高いほど良い。その実現に向かって努力することで人生は充実する」と励ました。

銀行に入社した若いころ、法律の大切さに気づき、土曜、日曜日は図書館へ通い勉強。通信講座を5年で50講座受けたことを紹介し学ぶことの大切さも説いた。会頭から青年部の集まりに合わせるセミナーを開催してどうか、北陸新幹線開業にあわせ桜木町のナイトスポーツマップを作ってはどうかとアドバイスがあった。

最後にみんなで蕎麦を食べ、再度乾杯。会頭から「若手経営者の皆さんは地元の宝だと思っている。地域の活性化に貢献してほしい」とエールを送り、次代を背負う彼らを温かく頼もしそうに見守った。

「参加者」

- 五十嵐健昇(五十嵐建設株) 代表取締役
- 養輪 寿宏(ミノワ社会保険労務士事務所 代表)
- 澤田 帝(良久工業株) 代表取締役
- 村家 幸伸(むらい食品株) 商品部長
- 沢崎 里沙(月夜花 代表)